

中地区公民館運営審議会概要

中地区公民館

実施年月日	第5期 第4回運営審議会	平成28年12月19日(月)	
会場	中地区公民館 4階会議室 午前10時00分から		
出席者	運営審議会 委員	大桃 伸一、葦澤 均、安原 達夫、井上 秋江、 丸山 昇一、高橋 まり子、小浜 由美子、齋藤 由紀 (太田三平委員、熊倉浩美委員は欠席)	
	事務局	中地区 公民館	鷺尾 雄二、土沼 裕子、加藤 朝香
		石山地区 公民館	野口 美奈子、保坂 京子
おもな議題	(1) 平成27年度事業評価シートの委員意見について・・・資料1 (2) 平成28年度事業中間報告について・・・資料2 (3) 平成29年度予算の策定状況について・・・資料3 (4) 平成29年度事業に関する委員提案について・・・資料4		
(鷺尾館長あいさつ)			
(議長あいさつ)			
(1) 平成27年度事業評価シートの委員意見について			
大桃議長	まず、平成27年度事業評価シートの委員意見について、事務局から説明願います。		
公民館事務局	(資料1に沿って説明)		
大桃議長	ありがとうございました。それでは、公民館ごとにもみていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。 中地区公民館については、委員の皆さん、いろいろなご意見を出していただきまして、ありがとうございました。それをまとめて、公民館のほうで案というものを提出していただいたのですが、いかがでしょうか。自分のこういう意見を取り上げてほしいという方、どうでしょうか。		
丸山委員	皆さんの意見は、取り入れられているのではないのでしょうか。ご自分で、これだけは入れてもらいたいというのがあれば、この場で言っていただければ良いのですが、大勢だから、まとめるのもなかなか大変ですよ。		
大桃議長	いかがでしょうか。高橋委員、いかがでしょうか。		
高橋委員	皆さんの意見を読んできたのですけれども、上手にまとまっているなという感じで、集約されていると思います。		
大桃議長	安原委員、いかがでしょうか。		
安原委員	いいと思います。		
大桃議長	では、よろしいでしょうか、中地区公民館のほうは。 では、石山地区公民館は、いかがでしょうか。最後のところのマンネリ化した事業、要は「講座内容の一新や廃止など思い切った策も必要である」という、大		

	きな提言なのですが、いかがでしょうか。これは、齋藤委員のご意見ですかね。
齋藤委員	前回の運営審議会でもお話が出たと思うのです。そのすぐあとに書かせていただきましたが、なかなか同じことをしていても利用者数が増えない、参加人数が増えないというものがあるということをお聞きして、そこをいっそ思い切って廃止や何かして、また新しいものを取り入れたらどうかと思って書かせていただきました。
大桃議長	これは、よろしいでしょうか、全体の意見としてということで。結局、中地区公民館も表現は違いますが、スクラップ・アンド・ビルドということで同じような感じなのでしょうけれども、二つ並べると書き方が難しいですよ。では、よろしいでしょうか、石山地区公民館は。 では、木戸公民館はいかがでしょう。木戸公民館については、なかなか難しいところがありますね。丸山委員は、今後とも成果をあげてくださいという書き方で、安原委員は、閉館してくださいということで少し意見の食い違いがありますが、この辺は丸山委員、いかがでしょうか。
丸山委員	私は、基本的にできるだけ住んでいる近くにそういう施設を設けてほしいというのがあります。高齢化も進んでくると、なお行動範囲が狭くなってくるので、今あるものは、確かに館長をそこにおいてという形でないとか、いろいろな事情があって難しいのだと思うのですが、何とか工夫をして継続してもらいたいというような考えで、そういうことを書きました。
大桃議長	安原委員、いかがでしょうか。
安原委員	皆さん、木戸公民館に行ったことがあるのかなど。ありますか。
大桃議長	ないです。
安原委員	私は実際に行ったことがあるので分かるのですが、石山地区公民館にも大きな足かせになっているのです。私は9年前から見っていますが、その間木戸公民館はずっと同じです。一度見てください、どうなっているのか。それから発言してほしいと思います。 あそこは、東区プラザにも近いので、利用しようと思えば、東区プラザへ行ったほうがよほどいいし、中に入ってびっくりしました。何これ、こんなところでやっているの？と思います。だから、ぜひ、見てから言ってください。
大桃議長	野口館長、いかがでしょうか。
公民館事務局 野口館長	なかなか今あるものを廃止するというのは、単独では難しく、市の施策の全体の流れの中で見直していかなければならないものがあると思いますので、そういう調査がきたときには意見をあげながら、今後も考えていきたいと思っております。
大桃議長	この案では、今後については東区公民館活動全体の中で、その意義や必要性について時間をかけ検討する必要があるという形で、利用者の意見を取り入れながらまとめていただいたと思います。 次期のこの運営審議会でも、今、安原委員のご意見もありましたので、実際に委員の皆さんが行って、実態を知るといことも大事なような気がします。そして、

	意義や必要性について、次期のこの運営審議会で検討していくということも必要かなと思いますが、いかがでしょうか。
安原委員	木戸公民館に見学に行くとなると、駐車場が狭く、車を停める十分な余裕がないと思います。
公民館事務局 野口館長	乗り合わせていくとか、いったんここに集合するという形でないと、ほとんど停められない、5台くらいなら可能です。
大桃議長	今このやっている事業で、利用していらっしゃる方の意見というのはどうなのですか。
公民館事務局 野口館長	やはり、ご近所の方、町内会の会議の利用がほとんどを占めておりますので、こちら辺でいうと、町内会館みたいな役割を果たしている部分があります。元々そういう町内へのご寄付ということで建てられたものが、また市に寄付されたということなので、利用はそうなっているのかなというのがあります。サークルさんは高齢化で、定期利用としては一桁台に減っております。
大桃議長	あと、全体でご意見はいかがでしょう。副議長さん、何かございますか。
井上副議長	一度、木戸公民館を訪ねたことがあります。平日の昼でしたが、鍵がかかかっていて中へ入れず外観しか見ていないのですが、公民館活動に利用するにはどうかなという感じがありました。
大桃議長	では、全体を集約した案については、ここで原案どおり承認ということによろしいでしょうか。ありがとうございました。 では、次にいきたいと思います。平成 28 年度事業の中間報告について、事務局から説明願います。
(2) 平成 28 年度事業中間報告について	
公民館事務局	(資料 2 に沿って説明)
大桃議長	ありがとうございました。ただいま平成 28 年度の事業の中間報告を事務局のほうからご説明いただきました。何かご質問とかご意見はございませんでしょうか。
安原委員	中地区のほうで二つ。まず、コミュニティ・コーディネーター、地域デビュー応援講座なのですけれども、私は物見山 2 丁目町内会の副会長をやっているのですけれども、新しく地域デビューさせるのはすごく大変で、何で出てこないのだろうなというのが僕には分からないのです。やっているから。やってみてどの辺にその課題、そもそも来ませんよね、ここへ最初から。来る人はまだいいのですよね、それをどうすればいいのだろうと私も説明するのが悩みなので、何かアドバイスみたいなものがあれば聞かせてほしい。
公民館事務局 土沼主任	昨年、高橋委員さんと丸山委員さんも含めた企画委員さんからいろいろヒントをいただいて、従来の CC 講座というのは、地域活動をやっている人のスキルアップ講座だったので、全くやっていない人をまず掘り起こさなければだめだろうということで、そういった方を対象に今年度も実施しました。ただ、そうすると、本当にハードルの低いところからしないといけない。本当の目標としては、安原さんのように自治会の役員になっていただくとか、最終的にはそう

	<p>いうところまで頑張っていたきたいのですけれども、それをチラシやプログラムの中であからさまに出すと敬遠されてしまうので、なるべく楽しい事を提案して、それをきっかけとしてまず地域のことを知っていただくというものでした。今回、何十年ぶりかで学校給食が食べられますよとか、広報や内容も柔軟にして募集をしたつもりなのですけれども、初回の受講後に辞退される方がおられました。気軽に参加されて全く構いませんとお話しているのですけれども、何でなのでしょう、本当に苦労しています、これについては。</p>
丸山委員	<p>私、去年、一昨年と参加させて頂きましたが、名前をつけるときに新聞のコラムで団塊の世代が定年になり一度家に入ってしまうと、なかなか外に出てこれない、出ない人はずっと出てこなくなるというようなことで、その地域デビューという言葉があったので、一度、外に出てみましょうというようなことで「デビュー」という名前をつけました。私自身もそうだったのですが、1回目に出てくる勇気はなかなか出ないので、前回は地区のコミュニティの方に、近所にこういう人がいるので、何とか出てもらいたいという人にできるだけ声をかけてもらって、候補をあげてもらい個別に誘ってもらって何人かは出ていただきました。それでも、20人くらい集まりましたかね。ということで、出たいのだけれども、声をかけてもらわないと出られないという人もいるので、情報なり、声をかけてもらいたいという人の情報が大切だと思いました。</p> <p>ただチラシを配っても来てくれないと思いますので、近所でいろいろ聞いて、あの人そろそろ家にいるよとかという情報を得て、そういう人の中でコミ協なり自治会なりの役員さんなり、既に活躍している人から紹介してもらって、声をかけてもらうというようなことをしないと、なかなか集まらないのではないかなと。</p> <p>それと、今、お話があったように、楽しくないと、行っただけハードルが高いなど。楽しいうちに何人か仲間ができて、それなら少しくらいお手伝いをしてみようかというふうになってくるといいのかなと。あまり難しく考えないで、継続してこの事業を進めていってもらい、隠れている人材を何とか外に出てもらうきっかけづくりをして、楽しければ、次の年に友だち誘って出てくれるというような形にしないと、サラリーマンなり何なりやっていて、仕事をしてきて人との付き合いで大変な思いをしてきたのに、卒業したら人とのかわりはいやだなと思っているので、いったん家に入ってしまうと、なかなか出られない。出てくる人というのは、だいたい決まってしまう。何をやっても、出てくる人は決まるじゃないですか。だから、そういう人たちが仲間の人を引っ張ってくれるような事業、やる方も中身もそういうふうなものになるといいなと思います。</p> <p>石山のこれなどはおもしろそうですね、ご近所だんぎとか春の園芸とか、例えばこの前もまちづくりセンターで、園芸の説明をやると、それなりに人が来るのです。興味のある人は。例えば節電の話とか、こういうのをやると、これは全部出られなくてもいいのですが、よく効くクスリの話だとか、先般、血管年齢を測ります、肌年齢を測ります、それと脳年齢、骨量を測ります、と言う講座をやったら、これなら行ってみようかというようなことで、普段来られない人が来たりするので、楽しかったりすると続けられるのではないのでしょうか。</p>

<p>公民館事務局 土沼主任</p>	<p>今回の反省なのですが、集客のほうの工夫が必要だということと、あとはプログラム内容といったところも。</p>
<p>丸山委員</p>	<p>少し固いのかなという感じですね。</p>
<p>公民館事務局 土沼主任</p>	<p>いっそのこと、石山地区公民館の健康体操のような内容で始まって、最終回で実は地域デビューが目的の講座だったというような、そのくらいのやわらかさにしないといけない。</p>
<p>安原委員</p>	<p>地域デビューは、固いのだろうか。ネーミングが。分かりました。やはり個別だね。</p> <p>もう一つ、次のページの文化祭のときに展示品を販売するという話、私、会長になって9年目なのですけれども、2年目くらいにそういう話をしたのです、公民館の職員の館長に。そうしたら、それはできないと言われた。それを今、皆さんに勧めているから、どこでどう変わったのかなという、基本的にできないと断られたことがあるのです。</p>
<p>公民館事務局 鷺尾館長</p>	<p>公民館で販売ができないということはないと思います。今回どうやったかと言いますと、実は昨年、石山の文化祭で、あるサークルさんが値付けしてやっていたのです。それにまず触発されたというのが一つ。</p> <p>あと、中央公民館も、実はいくつかのサークルが売っているのです。中央公民館のほうに確認しましたところ、売ってはいけないという規則があるわけではないと。ただ、そこであからさまに公民館で商売、いわゆる営業行為、利益行為みたいなことはできない、これは一般的なルールとしてできない。あるならば、バザーとか、これまでずっと文化祭というのは販売はしてきたわけなので、今回作ったルールが、私が作ってしまったのですけれども、いろいろいっぱいあるのですけれども、要は基本的には文化祭の場でしか売ってはいけません。</p> <p>二つ目が実費程度、基本的にはそれで利益をあげないようにしてくださいと。それから、事前届と事後報告をしてくださいということで、紙を最初にいろいろ渡して事前報告をしてもらいましたし、事後報告も先ほど報告いたしましたように結果が分かっていると。この三つくらい。</p> <p>あと、ほかに細かい部分がもう四つ、五つあるのですけれども、そのようなルール決めをして、この範囲内でやっていただくと。要は、はっきり公明正大にやっていただいて、値付けも実際公民館の文化祭ですので、儲けが出るような販売は実はできなくて、例えば手芸サークルさんが毛糸のセーターみたいなものを売っていたのですが、2,000円とか値付けのあった商品もあるのです。ただ、毛糸代がそれを上回るのです。純毛の毛糸を買くと、材料費だけでその価格を上回ってしまうのだそうです。ということで、実は各サークルさんに私も見学をしながらいろいろお話を聞いたのですけれども、ほとんど実費以下の価格になってしまうのです。売れたものも、陶芸サークルさんは200円、300円という小さな箸置きみたいなもの、そういったものが中心で、実は先ほど121点6万9,000円と言いましたけれども、ほとんどのサークルが平均価格500円くらいになるのです。つまり、大物はそう売れないのです。</p>

	<p>小物については相当売れました。手芸さんも売り物でない商品まで指さして売ってくれと頼んだ方がいたそうです。私が聴き取ったところでは、非常に楽しかったと。売上も製作者、つまり作品の原材料費を出した方にそのまま渡してもいいですし、サークルへの寄付にしてもいいですし、サークル協議会に寄付するとありがたいですと。それから、赤十字ですとか社会福祉協議会等、福祉関係の団体への寄付もありがたいですと。その場合は寄付であると、そういうところへの寄付であると明示していただくとありがたいですというふうなお話ですとか、結果的には主催サークルへの寄付がほとんどでした。あと、個人に還元したサークルもいくつかありました。ということで、今回 40 周年ということで販売を始めたわけではないので、今年は様子を見ながらやろうと思ったのですが、来年もぜひやりたいなと思っています。なお、中央公民館には事前に了解を取ってあります。</p>
安原委員	<p>自分の作った作品が売れるということは、儲けではなくて励みになるのです。絶対です。ですから、それは続けてほしいです。だから、さっき言ったように、2年目か3年前に続けて、あの当時、館長は1年ごとに替わっていましたから、2年とか1年、私が入って最初の館長が2年で、その次が1年で体調不良で替わって、次の人が5年で、今は2年ということなのですけれども、続けて言ったのだけれども、全部拒否されていたので、何でだと言っていたのですけれども、それは励みになるからやってくれと言っていたのだけれども、ずっとだめだったのです。それが変わったので、どうしたのかなと。</p>
公民館事務局 鷺尾館長	<p>多分営利行為というところを、要はかなり厳しく解釈されたのではないかなと思います。私どもは営利行為ではないのだと、場合によっては寄付もできるのだと。あと、実費程度というルールも入れております。しかも、管理している。普段、毎日のようにそのサークルさんが販売すると、これは少しまずいかなということで、それはやめるようにと書いてあります。そういうルール下でやれば、大丈夫かなと考えております。</p>
安原委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>それで、石山のほうなのですけれども、先ほど実施日程が毎週、5週で5回というのがありました。</p>
公民館事務局 鷺尾館長	<p>「伴創幸」でしょうか。</p>
安原委員	<p>行く側からすると、1週間にいっぺんというのはすごくタイトというか、厳しいと思います。いろいろな予定があるので、自分も5週で5回などやっっているながら、編み物か何かでやったので、それは言えないのですけれども、やはり隔週ぐらいがいいところでないのかな、2週間にいっぺんくらいだと都合がつきやすいような気がする。そうなので、できればその辺は少し参考にしていただければと思います。</p> <p>僕は何が言いたいかというと、運営審議会は過去のことを問うのはいいのだけれども、その時間は減らして、これから何をするか具体的なプランを立てるほう</p>

	<p>を主力にしてほしいのです。それを願っているわけでしょう、公民館側としては。終わったことを2時間あるうち1時間半やって、30分で先のことをでは本末転倒だと思うのです。30分くらいにして1時間半、次に何をするかをみんなで検討して出したほうがいいと思うのです。そういう場なのでしょう、これは。違いますか。はっきりしませんね、違うのですか。</p>
公民館事務局 鷺尾館長	<p>半々だと思います。安原委員がおっしゃるように、過去のものを見ていただいて次期に、次期にというのは次のときにまたよりよくなるようにご提言いただくという、それが運営審議会だと私は思っております。</p>
安原委員	<p>ですから、皆さんが持ち寄ったプランを出して、それを達成するために過去の経験を生かしていく、だから、新しいものを作ることをのほうを優先しなければ意味がないと思います。免罪符ではないのでしょうか、これ。</p>
公民館事務局 鷺尾館長	<p>それは、もちろんです。</p>
大桃議長	<p>その辺のところは、また次回に運営審議会のあり方みたいところで、少し皆さんで話し合っていけるかと思えます。</p> <p>私は、先ほどの文化祭の館長さんの提言、とてもいいと思いました。お客さんというか、そこに参加する人の身になってみれば、絵など僕は好きなのだけれども、買いたいと、無名の人は安いし、すごく気に入ったものは陶芸もそうですが、ただそれを見るだけだと少しね、買えるということがあれば、もっと行きたくなるような気がします。そういう形でどんどん地域に開いていったらいいかなという気がいたします。</p>
安原委員	<p>洋画の場合、額なしでも置きますけれど、額は自分で持っているかもしれないし、自分で買わせればいいわけですよ。描いた絵だけだったら、いくらですというかもしれない。額付きでなければ、どうしても売らないというのも意固地な話なので。</p>
大桃議長	<p>プロの絵描きの人は、はがき1枚いくらとか決まっています、たいして自分の好みでないというのがあるのだけれども、素人の場合は本当にいいものがたくさんあるから、県展などへ行っても、すごくたくさんありますよね。そういうものを手に入れたいなという気がしますね。ほかに、ございませんか、お願いします。</p>
小浜委員	<p>今回、石山公民館の美活いろは塾を企画されて好評だったようなのですけれども、まず1点が、市内在住・在勤のお勤めしている女性ということで、30代から40代の方をターゲットとしていらっしゃるのですが、これを見て、本当は行きたいのだけれども、だめねということで断念された方もいらっしゃると思うので、また次回このような企画をされるときに、あくまでこの世代でいかれるのか、次回の地域の女性リーダーを志して、これからの公民館活動に参加しようという方の幅を広めようということであれば、もう少し年齢幅を50代まで上げるとか、あとは20代でもOKですよと、あくまでも市内に勤めいらっしゃる方の交流になるようなこと、あるいは公民館活動を理解してもらうためのステップにしようというお考えをもって、また次も企画されるのか、その辺を少しお伺いしたい</p>

	という気持ちがあります。
公民館事務局 野口館長	今回は結果的に 20 代から 50 代までの方にいらしていただきました。当初 30 代、40 代でも最大 20 歳の年齢差があるので、少し話がどうかと思って、そのようにさせていただいたのですが、結果的に 20 代でも 50 代でも全然差がなかったの、来年も実施するのであればそういう縛りを取って現役世代という形で募集したいと思います。
小浜委員	分かりました。それがよろしいかと。
公民館事務局 野口館長	ありがとうございます。
安原委員	今、思い出しました。「地域の茶の間」でしたか。無料のいろいろな講師を連れて来ると言っていましたよね。
公民館事務局 野口館長	「ご近所だんぎ」ですね。
安原委員	「ご近所だんぎ」ですか。今、ふと思ったのですけれども、石山地区にある団体がいろいろあるじゃないですか、この人たちが来て、今日は何かを作ろうとかというのを企画したらどうなのかなと。だから、来て話をするだけではなくて、話をするのは皆さんものすごく重要に考えているかもしれないけれども、話し合いましょうとって話ができますか。何かやりながらだったら、話が進むような気がするのです。手を動かしながら。だから、そういうものを折り込みながら、そちらのサークルの宣伝にもなるしというところでやったらどうかと、今そう思ったのです。
公民館事務局 野口館長	ありがとうございます。企画委員の方たちにも伝えたいと思います。
安原委員	せっかくいろいろなグループがいて、その人たちが何十年もやっている人がたくさんいるから、そういう人たちを活用すればいいというふうに思います。
大桃議長	よろしいでしょうか。では、次の議題の平成 29 年度予算の策定状況について、事務局からご説明願います。
(3) 平成 29 年度予算の策定状況について	
公民館事務局	(資料 3 に沿って説明)
大桃議長	ありがとうございました。平成 29 年度の予算のことについて、何かご質問等はございませんか。 毎年のように、このマイナスにずっと 10 年近くなっているのですが、それはほかの部署もだいたいそのような感じなのではないでしょうか。
公民館事務局 鷺尾館長	長くなって申し訳ないのですけれども、市の予算の組み方が比較的重点事業といいまして、重点事業が真っ先に予算を取ると。その重点事業というのはどういうふうに決めているかという、各部署から市長の基本的な方針に沿ったような事業提案をしていただいて、それが真っ先に予算を確保していくという形がとられております。 あともう一つ、いわゆる生活扶助費といわれるような福祉的なものについて

	<p>は、年齢区分の違いですとか、そういったことである程度計算をして、それは法律等でこれだけ支給するというのが決まっていたりしますので、そういったのはガチッと取ってしまう。そういったしますと、それ以外の分野のものについては、比較的減らすことができるものですから、あと、当然歳入ということが一方でありますので、その歳入と歳出との比較の中で優先といいますか、そういった事前にとったお金以外の部分を対比させる中で、何パーセント減、あるいはシーリングと呼んでいますけれども、そういった形で割り当てがくるという形になります。公民館の経費につきましては、専門用語で枠配分といわれるタイプのお金で、比較的法律の縛り、これだけかけないといけませんよという縛りがまったくないものですから、比較のある程度財政部局は、「えいやっ」というふうな形で切ってくるというふうなものがどうしてもあるということになります。</p>
大桃議長	<p>ありがとうございました。重点事業などはすごく予算がついて、それこそ使い切れないような感じでやっているの、私がこのようなことを言うのはふさわしくないのですが、日常的な地道な事業というのもとても大事なのですよね。やはり市の行政というのは、そういうところをしっかりとやってほしいなという気がします。もう10年もずっとマイナスが続くと、半減どころか大変ですよ。</p>
井上副議長	<p>素朴な質問なのですが、事業費の増減のところ、これは平成29年度の予算がこうなりますよということですよ。</p>
公民館事務局 鷺尾館長	<p>おっしゃるとおりです。29年度予算の案を今公民館サイドでは中公が配分して、このような形で、方向で詰めているという、そのような感じでしょうか。</p>
井上副議長	<p>一番下の石山地区公民館さんのところを見ると、歳入は少し減って22が△になっていますが、事業費が282とガッパリと減っていて、おやっと思ったのですが、今まで一生懸命やってきた事業がどれだけ減るのかなというか、その辺、少し危惧があるのですけれども、そこら辺はどうですか。</p>
公民館事務局 鷺尾館長	<p>とりあえず、まず私から。これは実は「ゆりかご学級」というのが、東区で3本やっております。中地区公民館は今年1本、それから石山が2本やります。来年度、事業分担の関係で中地区が「ゆりかご学級」を2回、それから石山が1回に減ります。そうすると、「ゆりかご学級」が1本20～30万円くらいかかる事業なものですから、そうすると、石山から20～30万円分が中地区へくことになります。ということで、からくりという失礼なのですが、そういうふうなことで、どうしても表面上はそういうふうな形になってしまいます。</p> <p>では、石山と中地区の事業量がどうなるのかということなのですが、中地区につきましては「ゆりかご」が2本になりますので、その分、労働力は同じなものですから、何か取捨選択しながら、少し調整しないといけないという形にはなります。石山さんは、「ゆりかご」が1本なくなる分、逆に労働量をその分をほかに回すということで計画していると思います。</p>
井上副議長	<p>何とかなるのですか。</p>
公民館事務局 野口館長	<p>何とかします。</p>

丸山委員	予算申請というのは、こちらでこのような事業をやるのでと積み立てていて、要するに石山はこれだけ必要ですよ、中地区はこれだけ必要、こういう申請の仕方をするのですか。
公民館事務局 鷺尾館長	枠配という形です。
丸山委員	見ていて大変じゃないですか、内訳を見るかどうかは別にして、要するに中地区としてはこれだけほしいのですよと、具体的な中身を見なければ見ないでいいのだけれども、こちらから申請があって、それに対して評価していくらと、こういう決め方はしないのですか。
公民館事務局 鷺尾館長	なかなか難しい技術的な話をして恐縮なのですが、先ほど枠配と申し上げましたけれども、財政当局から公民館関係のお金の中で、実は今年はほとんどが枠配でした。ということで財政当局、財務課といいますけれども、そちらのほうから中央公民館を含めて、全公民館の予算としてほしいのくらいということでお金がきます。それを今度、中央公民館さんが各館にどのくらい配分するかということなのですが、各館は当然各館で事業計画みたいなものをそれ以前に立てているのですけれども、なかなかそれも各館で、例えばこういう分野を必ずやれとか、そういうふうにやっていくと、今年はこれだけやるから、去年は例えば年間 150 万円だったけれども、280 万円よこせというふうなのはなかなかできない。うちがそれだけ取るということは、ほかの館に必ずしわ寄せがいきますので、そういたしますと、多少のデコボコができないわけではないと思うのですが、ほしい前年度並みで東区としては割り当てられるという、そのようなイメージで。
丸山委員	事業申請というよりは、枠配分ということなのですね。
公民館事務局 鷺尾館長	そのような感じになります。市役所が全部そうだというわけではないのですが、例えば重点事業の話を見せていただきましたし、あと、それから個別予算要求みたいなものがありまして、非常に金額の大きな、例えば何億円のような事業をやるかというのは、個別に財務当局と予算折衝みたいな形で、その場合は、例えば3億円要求したけれども、その3億円は査定されて2億 5,000 万円に削られたうえで予算がつくとか、あるいはゼロ査定ということで、まるっきり財務課は認めなかったと、そういうふうな個別要求という形のものも実はあるのです。ただ、公民館の場合は、ほとんどが枠配であるという感じになります。
大桃議長	よろしいでしょうか、今の案件について。 では、次にいきたいと思いますが、平成 29 年度事業に関する委員提案について、これも事務局のほうからお願いいたします。
(4) 平成 29 年度事業に関する委員提案について	
事務局	(資料 4 に沿って説明)
大桃議長	ありがとうございました。ただいまの説明について、何かご質問とかご意見はございませんでしょうか、いかがでしょうか。 私としては、先ほどご説明があったように、予算はずっとこのところ減らされ

	<p>ておりますね。そういった状況を鑑みた場合、やはり公民館がほかの機関と連携しながら地域の活動を活性化していくというのも、今後大事なことになっていくのではないかと思います。一つは学校と連携して中学生が職場体験で公民館に来てもらおうと、とてもいい試みだと思いますが、今、齋藤委員から提言がありました企業とも連携しながら出前講座、子育てセミナーというのをやっていくというのも、一つの検討事項ではないかなという気がします。ほかに、ございませんでしょうか。</p>
丸山委員	<p>初めてこういうのを皆さんに出してもらおうと、やはりいい意見がいっぱいありますね。これの中で、できるものはどんどん取り入れてやっていただけるとありがたいと思います。</p>
安原委員	<p>丸山委員が提案している3番目の「男の簡単料理(そば打ち等)」、そば打ちは昔やったのです。夫婦で来られて、十二、三人くらい来られたのかな、3回くらいあるのだけれども、結局、それをサークル化しようとするとも誰も手を挙げないので、それでポシャるのだけれども、結局そういうところでも自ら労をいとわない人は少ない。それで、本当にかっかりしたこともあります。そば打ち自体はいい企画なので、セッティングすると人は集まるのですが、その先、誰かが代表になってくださいと言うと、みんなそばを向くという、そういう人間ばかりなので頭にきましたけれども。</p>
丸山委員	<p>私が言ったのは、この中のいろいろな講座の中身の中の一つに入れてもらったらどうですかと、こういう。</p>
安原委員	<p>だから、公民館でやる講座のときはいいけれども、それから発展させようと思うと、そこが壁なのです。</p>
丸山委員	<p>今、私たちがやっているもので、年に2回ずつそば打ちというのをやっているのですけれども、だいたい十四、五人集まって、そば打ちが2回とうどん打ちを1回、たまたまそのメンバーの中に自分でできる人がいるから継続できているのです。やはりやってみると、何回かやっているうちに自分でも打てるのかなという感じになってくるのです。そういうふうが続けられれば、そういうメンバーがいたり、そういう講師がいたりするといいなのでしょうね。</p>
安原委員	<p>講師でなくて会の運営ですね、運営を担う人がいないのですよ。だから、そばだけではなくてうどんもやったのですけれども、そばに比べると、うどんの方がはるかに楽です。そばは乾いちゃうから時間に追いかけるし、すごく難しいなと思いました。</p>
大桃議長	<p>ほかに、いかがでしょうか。</p>
安原委員	<p>今のこの件ではなくて、それ以外にでもいいですか。</p>
大桃議長	<p>結構だと思います。</p>
安原委員	<p>僕は何も書いていないのですけれども、最近思っているのは先人の知恵ということで、郷土でもってずっと食べられてきた料理とか、お総菜みたいなものを何とか復活できないだろうかというふうなことを今考えているのです。ですから、そういうものをちゃんとできる人がいる間に何か引き継げないだろうか、そうい</p>

	<p>う取り組みみたいなものを考えてもらえないだろうかということなのです。新潟の近くに五泉の里芋、ものすごくおいしいじゃないですか、ああいうものとか、そういうものを生かした料理を残していきたいという思いがあるので、そういう企画をぜひお願いできないかと。何十年も何百年も食べられてきたものというのは、理由があるのです。良さの理由が。ですから、それを今そこを忘れてしまっているのを、それを何とか継続して食べていけるような企画を、公民館としてはそういう企画というのは大事だと思うので、今ですけれども、提案させていただきたいと思います。</p>
大桃議長	<p>そういったことを研究している人も、私の前の同僚ではいました。</p>
公民館事務局 鷺尾館長	<p>検討させていただきたいと思います。分かりました。</p>
齋藤委員	<p>先ほど安原委員から、運営する側に誰も回らないというお話があったのですが、私も今期、また小学生期の講座の運営委員をさせてもらって、最後にあいさつをして締めたのですが、もちろん講座を受ける側も大事だけれども、自分が今度運営する側、企画する側に回って、周りの人の悩みや何かを解決できる講座をというふうに、みんなの力で運営・企画をする場にしてほしいので、そっち側に回る、ぜひ挙手をお願いしますと言ったのですが、やはりシーンとなって。受けるのには来るのですが、なかなかハードルが高いと思うのか、面倒くさいと思うのか、やはり自分が税金でこのように学ばせてもらって、それを今度自分が学んだこと、疑問に思うことを社会に恩返しではないですが、何かの役に立つという側に立ってほしいというのがあるのですが、なかなかそこまでいかないというのをひしひしと感じます。あと、予算が減らされている中で、企画をするうえで何回も企画委員をして感じたのですが、申し訳ないのですが、公民館の担当の方が替わって、ある担当の方は非常に熱心に、こちらは大変ですが、企画書を書かせて、何回も書かせてもらって、練りに練り上げてやった講座と、今回担当の方が替わって、いい加減ではないと思うのですが、楽しくやりましょうというので企画書を一回でも書くと、変わるのではないのでしょうか、みんなの思いが分かるのではないのでしょうかと提案しても、やはり楽しくやりたいし、面倒くさいことはしたくないというふうに言われて、口頭での話し合いだけで決めた講座で、私はどちらも経験させてもらったので、大変だったけれども、やったほうは満足度も違うし、受講者の満足度、感想の量も全然違うということに気づいたので、やはりお金を大事に、少ない予算をあてがって行って行う事業だからこそ、やはり企画する側も真剣にやって、よりよいお金の使い方をしないといけないのだなと思いましたし、そういった意識も公民館の職員の人にも、もっともっと持っていただきたいという感想を持ちました。</p> <p>あと、その担当をあてがうのはどうなっているのかなと思ったのですが、前任者の方もサブでも何でもいいので、少しあてがって二人体制でやるとか、何かまったく急に来た方にばいと投げるとかというの、新しい発想があつてすごくいいとは思いますが、少し違和感がある今回だったので、そこら辺も</p>

	少しご配慮いただけたらと思いました。
大桃議長	<p>ありがとうございます。ほかに、いかがでしょうか。委員の皆様から貴重なご提案をいただきました。そして、公民館のほうからも、こういう形で、できれば計画していきたいという方向性が示されたことは、とてもいいことではないかなという気がします。次回はどうなったかというのをみんなで話し合いながら、こういう流れになっていると、すごくいい感じになりますね。やっていけたらという気がいたします。</p>
安原委員	<p>ついでなので、いいですか。事業チラシの作り方なのですけども、これは去年私が作ったものです。「編みもの体験講座」、皆さんは文字をいっぱい書いてると読まないと思っていますよね。違うのですよ。関心のない人は、どういうふうに書こうと読みません。でも、関心のある人というのは、こういうふうによく書いても、よく読んでくれるのです。だから、僕はいつもこういうふうにするときは、自分の思いを全部ぶつけて書きます。細かいなと思うほど書くのですけれども、でも、来る人はしっかり読んでいるのです、隅から隅まで。そういうところを自分の既成概念で、いっぱい書くと読まないというふうに思わないで、必要なことは書いた方がいいのです。だから、私はいつもこういうふうで、ハモニカのときもそうだけれども、本当に細かく書くのだけれども、全部読んでくれているのです、来る人は。だから、関心のない人は、どう書こうと来ません。読まないから、そういう人は無視して、関心のありそうな人を引きよせるような書き方が必要ではないかというふうに思います。だから、僕はだいたいそうなのです。自分が関心のあるものを読んでいくと、ここの部分はどうなっているのだろう、ここの部分はどうなっているのだろうと疑問が起きるような文はだめなのです。全部読んで、これで全部自分の中で一件落着かなと思うようなものを作ってほしい。そうすると、わざわざ電話しなくて済むじゃないですか。そういうものを作ってもらったほうが、効果があると思います。</p> <p>実は町内で、先ほど副会長の話をしましたけれども、町内新聞というのを作って、毎月1日に作って全戸配布しているのです。各部の活動内容と来月の予定とかを全部入れて、今はもう閑散期になったので、閑散期でないときはA4-2枚です。これにびっしり書く。配っているのだけれども、ものすごく喜ばれています。各部の活動状況が全部分かるしということで、来月にこういうのがあります、こういうのがありますと回覧にしていると、行っちゃうじゃないですか。あれ、どうだったってなんて絶対に覚えていないから1軒全部置くようにして、だいたい1か月で170枚くらい印刷して、班長さんに全部配ってもらうような形でやるのだけれども、ものすごく評判がいい、忘れないで良いということで。だから、やり方一つなのです、どういうふうにするかという。だから、文章はすごく大事です。</p>
大桃議長	<p>このチラシは、公民館のほうでみんな作られるのですか、大変ですよ。いろいろな形でこのチラシを見ると作られているような気がしますので、講座によって書き方は様々あってもいいかなという気がいたします。</p>

<p>公民館事務局 野口館長</p>	<p>高齢の方へはポイントを大きく、そういう配慮はしています。あとは、チラシは棚に入れられてしまうので、チラシ上部の目に留まる部分の表示が大きくないと、誰も手にとってくれないと言われているので、そういうところに気をつけたりはしています。</p>
<p>大桃議長</p>	<p>では、その他2件ありますので、そちらのほうにいきたいと思います。事務局のほうからお願いします。</p>
<p>(その他事項について事務局より説明)</p>	
<p>(大桃議長あいさつ)</p>	
<p>(事務局あいさつ)</p>	